

けいちゃんを偲ぶ

きのう(3月13日)青山葬儀所で「谷口けいを偲ぶ会」が開催された。日本全国から500人を越える方々が参集された。

もちろん名前は知っていたし、彼女がツアーでツアーリーダーとして働いているアルパインツアーの社内でも何回かはすれ違っていて、お互い頭をペコンと下げ合っていた。同じ山を舞台にしているとはいえ、けいちゃんはアルパインクライミングの第一人者であり、ぼくは大衆登山に目配りする役どころだから接点はなかった。

アルパインツアーが企画実施してくれている「岩崎元郎の地球を遠足」は2005年3月、現社長、芹澤健一氏肝いりでスタートした。おかげさまで回を重ねるごと盛り上がり、2012年1月にキリマンジャロ登頂が計画された。地球を遠足の36回目になる。5,895mのキリマンジャロは、中高年登山者の憧れの頂きである。「岩崎流ゆっくり歩き」にご期待下さったのか、22人の方が申込み下さった。安心安全を旨とするアルパインツアーは、ツアーリーダーを3人付けてくれた。さらにもう一人、けいちゃんを同行させてくれたのである。おかげで世界のトップクライマー谷口けいと、キリマンジャロという華やかな舞台で共演することができた。

とはいっても大所帯、なかなかゆっくり話しする時間もない。いつどこでだったか記憶にないのだが、ちょいとおしゃべりする時間があった。

「悪い悪い、岩崎さん。あたし岩崎さんの本、全然読んでいないんだよね」。ぼくは手のひらを横に振って、「お気遣いは無用だよ。『山登りでもはじめてみませんか』なんて、けいちゃんが読む本じゃないじゃん」。「あたしが読んでいるのは、『日本登山大系』だけ」。

谷口けいも一目おいてくれる『日本登山大系』全10巻、第1回配本は『槍ヶ岳・穂高岳』で、1980年8月のことだった。36年前のこと。けいちゃんの目にとまっただけのことはあって、昨年12月から今年の1月にかけて、全10巻普及版が全巻復刊されたのであった。

そう、けいちゃんの魅力はあの目にある。鋭いというのではない、優しいというのではない、全てを見透かす奥深い目、けいちゃんの目を思い出すだけで、ブルと身震いするようなちょっと怖い目だったなと思っている。

会場の入り口で野口健君に会った。前夜、「世界不思議発見」で野口君のエベレストを見たばかりだった。番組の中で野口君は、「やらなくてはならない無理と、やってはならない無理があって、やらなくてはならない無理をやらないと登れないし、やってはならない無理をやったら遭難です」、へえ、いいこと言うじゃん。

けいちゃんの遭難が、やらなくてはならない無理ではなく、やってはならない無理でもなかったところが、残念としかいいようがない。合掌。